

指導の狙い

話の中心や話し手の意図を捉えながら聞き、狙いを明確にして質問をする。

課題の見られた問題の概要と結果

A② 話し手の話の内容を聞きながら書いた質問について、その狙いを適切に説明したものを選択する。  
正答率：65.5%

学習指導要領における領域・内容

(第3学年及び第4学年) A 話すこと・聞くこと  
エ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。

A②では、狙いを明確にして質問をすることにつまずいているようですね。



教師

(※本パンフレットにおける正答率は、抽出調査のため推計値であり、誤差±0.2%程度の精度となっています。)

授業アイデア例

例1 は本問題を活用して指導する例 例2 は出題の趣旨を踏まえ単元化して指導する例

例1 観点に基づいて質問をする。

(全1時間 対象：第3学年以上)

【質問を書いたカードを観点に即して整理している例】

1 各教科等で行っている調べ学習について、グループごとに説明(1分間スピーチ)し合い、質問をしたい内容をメモに取り、互いに質問をする。

2 調査報告を聞くときに、どのような観点に着目して聞けばよいかを話し合う。

3 A②の【高木さんの発表のはじめの部分】を聞き、質問をしたい内容をカードに書く。  
①まず、教師による全文通読を聞き、質問をしたい内容をカードに書く。  
②次に、一文ずつ聞き、さらに質問をしたい内容をカードに書く。(カードに書く時間を確保する。)

4 書いたカードの内容が、どのような観点到して整理しているかを整理する。



上の四つのほかに、次のような質問の観点も大切です。

- ◇話し手の意図や結論を確認しようとする質問
- ◇自分の経験や意見と比べようとする質問
- ◇自分の理解度を確認しようとする質問



例2 調査報告を聞き、自分の経験と結び付けたり、自分の考えと比較したりしながら質問をする。

(全5時間 対象：第3学年以上)

第一次 (1時間)

1 調査報告を聞くときの現状を基に、注意点を整理した上で、学習課題「読書生活について調べて発表し、互いに質問をしよう」を設定し、学習計画を立てる。

第二次 (3時間)

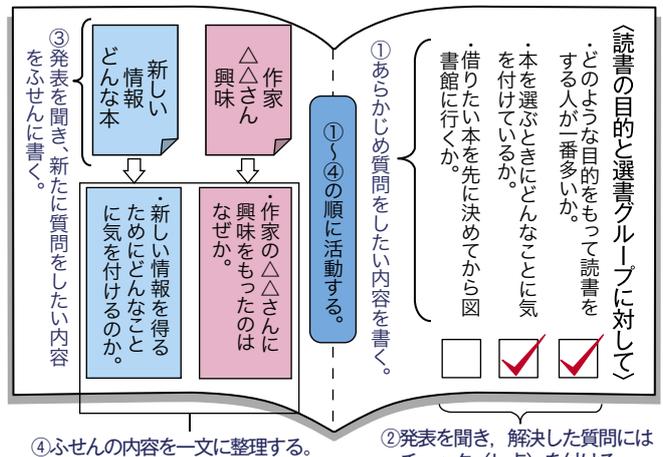
2 読書生活を三つの観点に分け、グループごとに調べる。(下記：①～③)  
①読書の目的と選書  
②読書の時間と時間帯  
③お気に入りのジャンルや作者  
3 グループごとに発表の準備をする。  
4 他のグループに対して、あらかじめ質問をしたい内容をノートに書く。そして、実際の発表を聞き、解決した質問にはチェック(レ点)を付けるとともに、新たに質問をしたい内容をふせんに書く。

第三次 (1時間)

5 【自分の経験と結び付けたり、自分の考えと比較したりする質問のパターン】を基に、どのように発言するかを話し合い、質問の練習をする。そして、実際に質問をし合い、相互評価する。

単元を貫く言語活動

自分の経験や考えを基に互いに質問をする



【自分の経験と結び付けたり、自分の考えと比較したりする質問のパターン】

【発表内容を引用・要約する】  
(例)「発表では～ということでしたが、」

まずは、発表の内容に簡潔に触れてから質問をしましょう。

**Aパターン【自分の経験と結び付ける】**  
(例)「私は、新しい情報がどの本に載っているのか見つからず、困ったことがあります。そこで、新しい情報をどのようにして得るのか教えてください。」

**Bパターン【自分の考えと比較する】**  
(例)「私は、自分が好きな作家に出会うことは難しいことだと考えています。〇〇さんが作家の△△さんに興味をもったのはなぜですか。」

【他のグループに対する質問を書いたノートの例】



留意点

小学校学習指導要領解説国語編では、「A 話すこと・聞くこと」の指導事項の〔第3学年及び第4学年〕において、「エ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。」を設定している。〔第5学年及び第6学年〕においては、「エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。」を設定している。主体的な聞き手が育つように、学年の発達の段階に応じて計画的に指導することが大切である。